

◆調査日：平成20年6月1日（日）

1 調査箇所：ルードル・エコミュージアム

2 調査箇所の概要

ルードル・エコミュージアムは、ニース市からヴァール川沿いに北西65 Kmの場所に位置し6つの小集落と、アントルヴァという町を加えた一帯。

3 調査の概要

- エコミュージアムとは、エコロジーとミュージアムをつなぎ合わせた造語で、フランスで発祥したものであり、一定の地域において、住民の参加により、その地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を研究・保存・展示・活用する実践活動。
- ルードル・エコミュージアムは専門家、教育者、科学者が協力し、住民と議員のイニシアチブで設立されたものであり、その目的は「地域の中で新機軸の魅力を作るため、環境に係わる文化的、経済的生活を構成する諸活動を行う実験場」である。
- ルードル・エコミュージアムでは、この取り組み前は、住民が10名程度まで減少し、町自体が消滅の危機にあったが、現在では100名前後まで人口が増加しているが、住民のほとんどが年金生活者であり、今後、いかに若者を増やしていくかが、課題となっている。

<調査風景>



